

1年生「性」についての
学習報告号 パート①



和泉市立富秋中学校 保健室

「性」についての学習を行いました！

11月中に2時間、「性」についての学習を行いました。覚えていますか？新しく聞く言葉も多く、中には難しいところもあったかと思います。学習の内容をまとめているので、おさらいとして読んでほしいと思います。ぜひ保護者の方にも見せてくださいね。

めあて いろいろな「性」のあり方について考えよう！

4つの性について

からだの性（生物学的性）

生まれたときに、体の見た目や形で判断された性

こころの性（性自認）

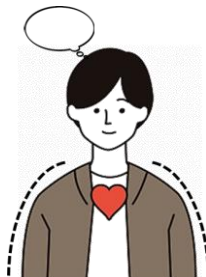
自分で自分の性別をどのように思うのか

好きになる性（性的指向）

どのような性別の人を好きになるか

表現する性（性表現）

自分の性をどのように表現するか



この4つの性が組み合わさって、1人ひとりの「性」が成り立っています。性のあり方は無限にあります。1人ひとり違っていても、誰1人おかしい人はいません。大切なのは、性のあり方を決められるのは「自分だけ」ということです。もし「自分の性のあり方が分からない。」というときは、無理に決めなくても大丈夫です。迷ったり変えたりしてもいいです。今の自分が感じている性のあり方を大切にしましょう。

マイリティとマジョリティについて

多数派:マジョリティ

少数派:マイリティ

「あなたはどちら？」という2択のワークをして、自分が多数派になったり少数派になったりする経験をしてもらいました。ものごとはぴったり半分に分かれることもあるけれど、多数派、少数派に分かれることが多いです。

しかし、多数派だから良い、少数派だから悪いということではありません。「性」についても、多数派、少数派があります。今日はセクシュアルマイノリティ（性的少数者）について学んでいきます。



セクシュアルマイリティについて知ろう！



L:レスビアン

こころの性が女性で、好きになる性も女性の人

G:ゲイ

こころの性が男性で、好きになる性も男性の人

B:バイセクシュアル

こころの性に関わらず、好きになる性は男性と女性、両方の人

T:トランスジェンダー

からだの性とこころの性が一致しない人
(からだの性に違和感があったり、こころの性のままに生きていたりしている。)

LGBTは、セクシュアルマイノリティ（性的少数者）の代表的な4つの頭文字をとった言葉です。LGBT以外にも、数えきれないほどいろいろな性のかたちがあります。どれも正しい性のあり方です。



私は男と女の真ん中あたりにいます。

私は男でも女でもないと思っています。

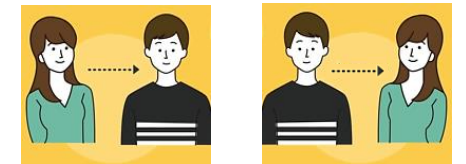
私は男か女が決められないし、決めたくないです。

私は男と女どちらも自分だと思っています。

セクシュアルマジョリティについて知ろう！

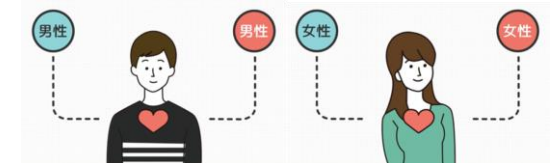
ヘテロセクシュアル

好きになる性を考えたときに、異性を好きになる人
女性は男性を、男性は女性を好きになる



シスジェンダー

自分の性をどう認識しているか考えたときに、
からだの性とこころの性が一致している人



少数派だから特別に名前が付いているわけではなく、誰もがどこかにあてはまっています、それぞれに名前が付いているということを知っておいてください。

SOGIについて知ろう！

SO (Sexual Orientation: 性的指向) = どのような性の人を好きになるか

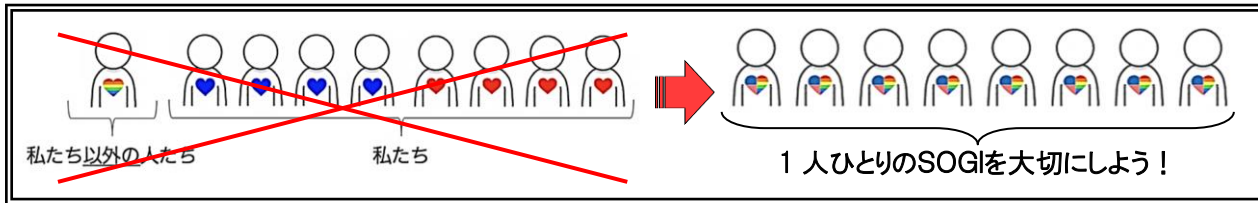
GI (Gender Identity: 性自認) = 自分の性をどう認識しているか

この2つの頭文字を取った、人の性質・特徴を表すのが**SOGI**です。マイノリティ(少数者)だけを対象にしているのではなく、マジョリティ(多数者)も含め、すべての人が持っている人の性質・特徴を指します。



裏面へ続く →

セクシュアルマイノリティ（性的少数者）の人に対して、「私たち以外の特別な人たちだから大切にしよう。」「特別な人たちだから優しく接しよう。」と考えるのではなく、『**少数派の人も多数派の人も、みんなが1人ひとりのSOGIを大切にしよう。**』と考えてほしいと思います。



まずは自分自身の性自認、性的指向を大切にしましょう。そして自分とは違う性自認、性的指向の人と同じように大切にしてほしいと思います。

『じぶんごと』として考えよう！

ワークを3題行いました！

Q1. 3人が恋人について話をしています。

マ ミ「ユリコ、恋人できたって聞いたよ。」
 ユリコ「そうなの！」
 サヤカ「彼氏ってどんな人？」



サヤカさんの質問に、ユリコさんはとまどっています。どうしてでしょう？

みなさんの回答を紹介します。

- 「ユリコさんは女性が好きだから。彼氏じゃなくて彼女だから。」
- 「恋人が男の人じゃない性別かもしれないから。」
- 「サヤカが、ユリコの好きな人は男だと思い込んでいるから言いにくい。」
- 「同性が好きだと言ったら変に思われそうだから。」
- 「ユリコさんが男女の真ん中だと思っているので、説明しにくいから。」
- 「ユリコさんの彼氏は体と心の性が一致していないかもしれない。そのことを言っちゃったら、彼氏はいじられるのではないかと困っているから。」

この問題で注目してほしいのは、「**恋人＝彼氏**」って決めつけていいの？ということ。**好きになる性は「異性」とは限りません。**同性を好きになる人、男性・女性の両方を好きになる人、好きになる性別が決まっていない人もいれば、どの性別の人にも恋愛感情を持たない人もいます。性のかたちは無限にあるということを知っておいてください。

ポイント！『自分の当たり前は、人の当たり前とは違うこともある！』

「異性を好きになること」を当たり前だと思う人もいれば、そうでない人もいます。この場面では、サヤカさんはユリコさんを困らせようとしたわけではないかもしれませんが、でも、**無意識の発言が、相手を傷つけたり、困らせたりすることがあります。**この場合であれば、「彼氏」「彼女」ではなく、「恋人」「パートナー」などと言うといいですね。



Q2. ミカさんがナオキさんについて話しています。

ミ カ「ナオキくんって女っぽくてキモくない？」
 トモコ「……………」

あなたがトモコさんなら、どのように返事をしますか？

みなさんの回答を紹介します。

- 「別にいいんじゃない？人それぞれで。」
- 「そう？そこがかわいくない？それが良さやん。」
- 「他人が人のことキモい、おかしいって決めるのは違うと思うよ。」
- 「自分の好きな性によせるのは、いいと思うよ。」
- 「もし女っぽかったとしても悪くないし、キモいって言ったらあかんで。」
- 「自分も、ミカちゃんって男っぽくてキモくない？って言われたら嫌やろ？自分が言われて嫌なことは言わない方がええと思うけどなあ。」



ポイント！『性に関する言葉・態度には十分気をつけましょう！』

セクシュアルマイノリティの人は、**日本の人口の5～8%**（13～20人に1人）いると言われています。みなさんの身近にもいる可能性があります。そんな中で、性のあり方について面白おかしく話したり、それをネタに笑ったりするとどうでしょう。言った人は冗談のつもりでも、言われた人や聞いた人の中には傷付いている人がいるかもしれません。**性のあり方を否定することは、その人の生き方を否定することにもなります。**性に関する言葉や態度には十分気をつけましょう。

また、人を傷つけるような言葉や態度に触れたときは、「それはよくないよ。」と言える勇気を持ってほしいと思います。



パート②に続く…